

「啓蟄」暗闇の先へ



静岡の今 93

物も心が弾む季節である。ところが、今年の啓蟄は日本中が息をひそめている。新型コロナウイルス騒動である。

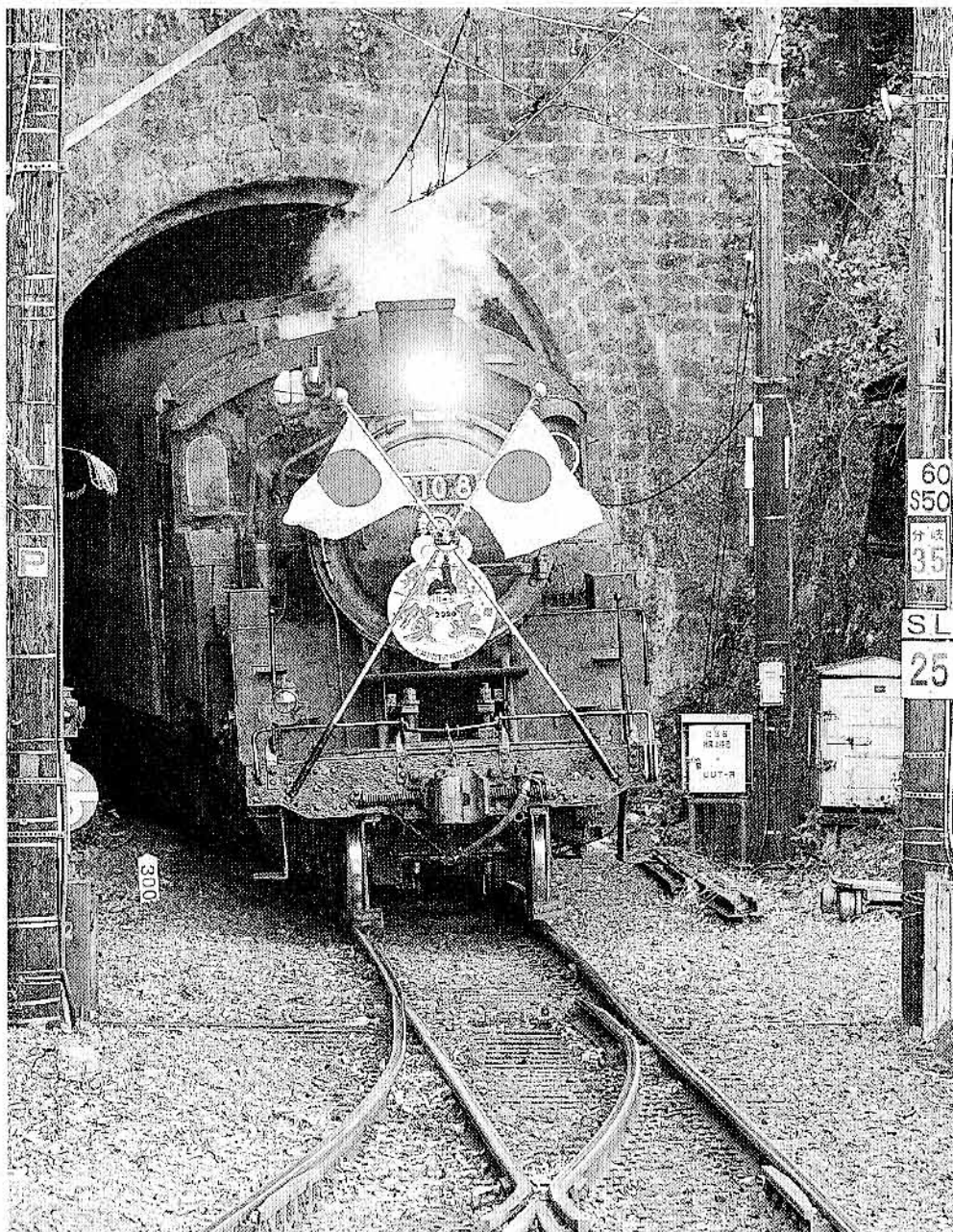
昨年12月、中国・武漢で発生が報じられた時、正直言って「外国の話」と思った。それが、2月初めに大型クルーズ船が横浜港に停泊し、次々と乗客の感染者が発生すると、急に身近な問題になった。国内でも感染者が見つかる都道府県がみるみる広がっていったが、県内では感染者は見つ

からなかった。ところが2月28日、いきなり静岡市でクルーズ船乗客だった男性の感染が確認され、市内のスポーツクラブにも行っていたことが判明して、一気に緊張が走った。その日、政府は全国の小中高校と特別支援学校などに3月2日から春休み前まで臨時休校するよう要請した。大きなイベントは次々と中止や延期され、「不要不急の外出」は自粛するよう呼びかけられた。

思い出の卒業式なども満足にできなかった受難の子供たちにささやかなプレゼントがある。大井川鉄道(本社・島田市)のSL特別企

面だ。普段でもSLが約40台の大井川本線にある14カ所のトンネルを力強くくぐり抜けているが、夏休みを挟む5月16日から10月19日の間は「トーマス号」の運転を予定、3月7日から特別乗車券の予約も始まる。3月3日は「桃の節句」。休校の子供たちをひな人形が待っていた家庭も多い。女の子の厄よけや健やかな成長を祈願して飾るひな人形は、子供に降りかかる災厄を代わりに引き受けてくれるという。

全国の家庭で息をひそめる子供たちに、今年ほど期待されるひな人形はない。(前静岡県監査委員・富永久雄)



トンネルを抜けるSL 島田市、全日写連・竹井晴彦さん撮影